

森林自己学習支援事業を活用しての感想

アウトドアスポーツを通して福島の森林を学ぶプロジェクト

福島学院大学アウトドアスポーツクラブ 顧問 杉浦 広幸(福島学院大学)



私たち福島学院大学アウトドアスポーツクラブ(旧ワンダーフォーゲル部)は、本事業に2017年より参加しました。当時、本クラブは部員が3月で卒業すればなくなるため、消滅する状況でした。福島県をはじめ東北地方の高校では、山に関するクラブがほとんど消滅していたので、部員が入るわけは無く、参加は有り得ないと思っていました。しかし、新年度になって入部してきた女子学生が乗り気で、彼女が部長となり急ぎよ参加することになりました。彼女の高校には、まだワンダーフォーゲル部があったようです。本課題の本来の目的としては「アウトドアスポーツを楽しむための緑地環境について学生たちが学習する」ということです。しかし、彼女も私も本事業への参加で、部を活性化させようと考えたのです。学生たちが、本事業にしっかり取り組むか、半信半疑なところはありました。



しかし、開始してみると、思った以上にフットワークが良く、植樹祭にも参加してくれました。浄土平山開きをビジターセンター、レストハウスそして森林管理署の協力で再開(前年まで火山活動で中止)したところTV取材が入り(写真)、翌年には100人を超える参加者が集まりました。阿武隈山地御幸山の原発事故汚染調査では、地域住民の方を集めた報告会を開催し、翌年には地元森林組合らが開催した御幸山の山開き開催に繋がりました。

本事業に参加した3年間を通し、学生たちの成長が見られたことが最大の成果だと思います。

会津地域における森・里・湖の資源保全と地域活性化

林薫平ゼミナール 顧問 林 薫平(福島大学)



里山活動とツーリズムを橋渡した学生活動

平成30年度と令和元年度の2年間、本プログラムを活用して、ゼミナール生たちは林業や里山の保全や、木材の活用を体験し、地域の専門家の皆さんとの協議を積み重ねる中で、森林・里山をうまく生かすような地域活性化の方法を考えてきました。

ゼミナール生たちは、林業や里山の実態を学び、林業や観光業や漁師さんなど色々な立場の人たちが参加する交流の機会を、大学生ならではの切り口でセッティングしてみることを通じて、地域活性化について現実に即して真剣に考え、集落の活動とツーリズムの橋渡しを試みる貴重な経験をさせていただきました。

令和元年度、国立警備青少年交流の家で開催された「いなわしろフェスティバル・冬」(令和2年1月)では、ゼミナール企画として、その

夏に地元の集落の皆さんと共同で実施した薪割り会の写真とパネルを展示し、生み出された薪を積み上げ、またその薪を活用して手煮を炊いて、熱々でフェスティバル来場者に提供して食べていただきました。さらに、来場者には油圧式の移動薪割り機で模擬的に薪づくりを体験してもらい、大好評でした。

この一連の成果を踏まえた集落の皆さんとの振り返りの中では、里山の整備と薪づくりを、地元の活動として行うだけでなく、県内や県外から来てくれる子どもたちや親子にも体験してもらえ楽しい活動として開かれたものにして、自然体験ツーリズムの目玉にもしていけるのではないかとこの発想が生まれました。このアイデアは、実際に、令和2年度に入って、地元ホテルを巻き込んだ事業化に発展しています。

こおりやま開成の杜復活プロジェクト

ナチュラルライフスタイル部 顧問 影山 志保(郡山女子大学)



ナチュラルライフスタイル(NLS)部は環境活動を主体とし、さまざまな活動を行っているサークルです。2011年の東日本大震災以降、利用が難しくなった郡山市磐梯熱海町石庭にある「郡山開成学園総合教育園」の復活プロジェクトについて、NLS部では、福島県森林自己学習支援事業補助金を取得して、この森林施設を子供が利用できるような場所として活用したいと考えました。そのためには、この場所の安全性の評価が必要のため、環境放射線の測定および環境調査の実施や、様々な森林体験プログラムからどんなプログラムが提案できるのかを検討してきました。

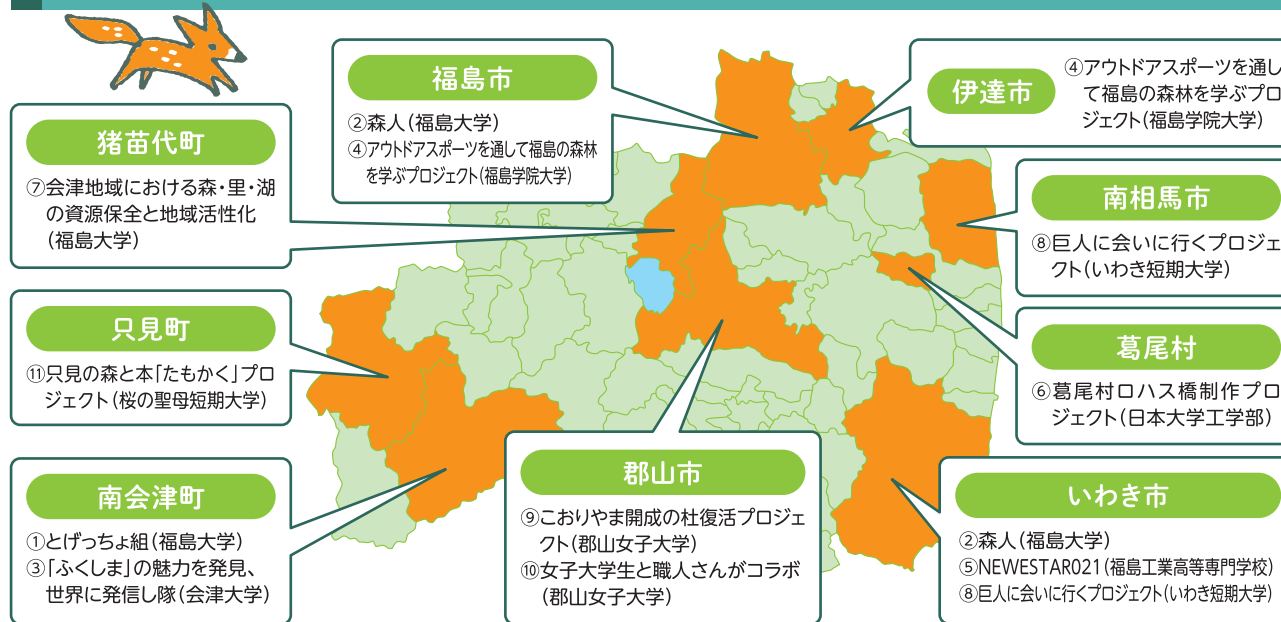
1年目は、専門家の指導の下、植物、きのここときのこのセンサム濃度の調査、鳥類の調査、動物の定点観測、そして環境放射線の測定を行いました。

2年目は1年目の調査を継続、その他に体験プログラムの立案のためにヒノキの伐採並びに郡山市熱海町竹ノ内地区にあるおっぱなし山学校の実施状況を調査しました。

これらの活動については、ふくしま再生可能エネルギー産業フェア2020や地域活動報告会および学園ホームページで情報発信を行いました。

最後に、昨年度から続く森林自己学習活動を通じて、若い学生が日本の国土面積の約7割を占める森林に少しでも興味を持ち、子供世代、孫世代へと豊かな自然を引き継いでいくことを期待しています。

各学生団体が活動する主なフィールド



福島県森林自己学習支援事業の補助を受けるには…

福島県森林自己学習支援事業に応募できる団体は、大学生等が組織する団体で、次の①～③の要件をすべて満たす必要があります。

- ① 森林や林業に対する関心を広げるための活動を行うこと。
- ② 森林・林業の情報発信の検討や実践を行うこと。
- ③ 構成員が3人以上おり、自主的活動を行うこと。

●対象となる活動が下記のような内容である必要があります。

- (1) 森林・林業・木材産業等に関する学習(研究)、及び地域貢献活動
- (2) 森林・林業・木材産業等に対する若者等の関心を広げる活動
- (3) 森林・林業・木材産業等に関する情報発信の検討及び実践

詳しくは、福島県 農林水産部 森林計画課までお問合せください。

お問い合わせは…

●福島県森林自己学習支援事業について

福島県 農林水産部 森林計画課

電話：(024)521-7425
E-mail: shinrinkeikaku@pref.fukushima.lg.jp
〒960-8670 福島市杉妻町2-16(西庁舎6階)
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/shinrinkankyouzei/>



●各学生団体の活動について

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局
(福島大学 地域連携課内)

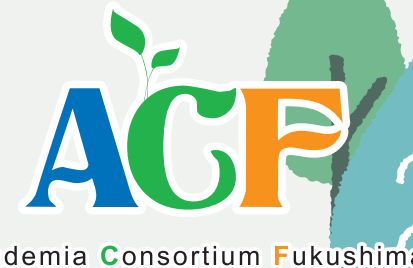
電話：(024)548-5295
E-mail: acf@adb.fukushima-u.ac.jp
〒960-1296 福島市金谷川11
<https://www.facebook.com/ACFukushima/>



2021年3月発行

福島県 森林自己学習支援事業

アカデミア・コンソーシアムふくしま会員機関の活動実績



※本事業は「福島県森林環境税」を活用して実施しています。

森林自己学習支援事業のあゆみ

2016年

- 「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊(会津大学)
- とげっちょ組(福島大学)
- 森人(福島大学)



2017年

- とげっちょ組(福島大学)
- 「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊(会津大学)
- アウトドアスポーツを通して福島の森林を学ぶプロジェクト(福島学院大学)
- NEWSTAR021(福島工業高等専門学校)
- 森人(福島大学)

2018年

- 「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊(会津大学)
- 巨人に会いに行くプロジェクト(いわき短期大学)
- 葛尾村ロハス橋製作プロジェクト(日本大学工学部)
- アウトドアスポーツを通して福島の森林を学ぶプロジェクト(福島学院大学)
- 会津地域における森・里・湖の資源保全と地域活性化(福島大学)

2019年

- こおりやま開成の杜復活プロジェクト(郡山女子大学)
- 女子大学生と職人さんがコラボ(郡山女子大学)
- 只見の森と本「たもかく」プロジェクト(桜の聖母短期大学)
- 会津地域における森・里・湖の資源保全と地域活性化(福島大学)
- アウトドアスポーツを通して福島の森林を学ぶプロジェクト(福島学院大学)

2020年

- こおりやま開成の杜復活プロジェクト(郡山女子大学)



①とげっちょ組(福島大学)

2016年度～2017年度



福島大学の学生団体「とげっちょ組 ～地域活性化サークル～」では、設立当初から南会津町の中荒井区をフィールドに活動しています。

この事業においては、地域住民と共に間伐材を利用したものを、多くの県民が集まるイベント「風とロック芋煮会」で披露し、県内の森林の現状を伝え、森林に対する興味・関心を持つ機会を設けました。具体的には、間伐材を用いた割り箸を会場内の飲食ブースで使用するよう、出店する飲食店に働きかけを行ったり、会場限定販売のオリジナルのノベルティグッズとなる間伐材割り箸を企画、制作し販売しました。さらに、会場内で使用した割り箸は、会場内で回収し、南会津町にある授産施設「あたご共同作業所」へ送り、木質ペレットの材料として再生利用する仕組みを整えました。

こうした活動内容は、SNSを通して情報発信しました。



②森人(もりんちゅ)(福島大学)

2016年度～2017年度



福島大学の学生団体「森人(もりんちゅ)」は、森林の素材を利用したものづくり体験を通し、福島県内の森林事業の現状を知ったり、身近な森林の保護活動等を続ける地域住民らとの交流を通して、森林に対する学生の関心を高めたりする活動を行う、学生主体の団体です。

平成28年度は、福島県内の森林を知り、課題を知り、実際に木材を用いたクラフト体験をする「フォレストツアー in いわき」を企画・実行し、田村市といわき市の森林でフィールドワークを行いました。

平成29年度は、福島市田沢地区の十二御前山周辺で里山保全などの活動を行う市民団体「蓬菜里山ふれんず」と意見交換会を行ったり、同会と共に「フォレストワーク」を企画し、実施しました。

こうした日頃の活動で学んだ内容については、SNS等を活用し、情報発信しました。



③「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊(会津大学)

2016年度～2018年度



会津大学の学生団体「『ふくしま』の魅力を発見、世界に発信し隊」は、平成24年度より南会津町の中小屋区の住民との交流を通して、大学生の持つ視点や行動力、IT専門技術などの「外からの力」を活用し、中長期的な地域づくり活動を実施しています。この活動の中で、人口減少と高齢化の進行が、耕作放棄地の増加・森林の荒廃・空き家の増加を生み出している現状を理解し、その解決に向けて、美しく豊かな自然や景観の「知られざる魅力」をデザイン思考の観点から再認識するための取組を推進してきました。

この事業においては、集落の住民との交流を通して、豊かな自然や森林保全などと共存するための地域課題のテーマを設定し、連携による活性化を試みる活動、たとえば毎年4月に行う「福寿草まつり」に関する情報発信などを展開しています。



④アウトドアスポーツを通して福島の森林を学ぶプロジェクト(福島学院大学)

2017年度～2019年度



福島学院大学アウトドアスポーツクラブでは、この森林自己学習支援事業で実施する取組を通して森林が木材生産以外に自然保護や観光等種々の面で役立っていることや、福島県特有の課題として、原発事故以来の山林の利用再開に向けた状況について学んでいます。

具体的には、平成26年以来中止となった「浄土平山開き」の復活を通し、国有林が木材生産だけでなく、環境保全や観光産業にも活用されていることなどを学びました。また、福島県北部の御幸山や信夫山の放射線量率の低下状況を測定しました。特に信夫山については、公園や森林の除染が進んでおり、その推移についても考察しました。

こうした日頃の活動の成果は、クラブのFacebookや学生個々のSNSのほか、大学祭での活動報告の掲示や現地での発表会によって情報発信をしています。



⑤NEWSTAR021(福島工業高等専門学校)

2017年度



福島工業高等専門学校の学生団体「NEWSTAR021」では、いわき市の遠野和紙の継承活動の支援を目的とした活動を展開しています。和紙の原料でもあるコウゾを手入れし、刈り取りする人手の不足を解消するために、福島工業高等専門学校の学生だけではなく、地元の小・中学生と共に活動を行っています。また、同時に地元の伝統的な和紙の文化に触れる機会として、遠野和紙を用いた行灯づくりのワークショップや、遠野和紙の公式マークをデザインするワークショップを企画、運営しました。行灯づくりのワークショップは、福島県林業祭においても出展しました。こうした遠野和紙に対する理解を深める機会を若者の手で創出する活動を、森林自己学習支援事業の取組として実施しました。



⑥葛尾村ロハス橋制作プロジェクト(日本大学工学部)

2018年度



日本大学工学部の「葛尾村ロハス橋制作プロジェクト」では、葛尾村に建設された復興交流館「あぜりあ」の敷地内にある、改修した蔵へアプローチするための木橋「ロハス橋」を計画・設置します。

これは、日本大学工学部のコンセプトである「ロハス工学」をテーマとしたプロジェクトで、水・木・緑を効果的に利用した外構計画の一つとして、村内の古民家の古材を積極的に利用した橋をつくるというものです。ここに至るまで、村民と共に話し合いを重ねながら、練り上げてきたものの一つです。

ロハス橋への古材の利用を通して、村民や学生が木に触れていくことは、古いものを長く、大切に使う文化・風習の再確認、村民同士のつながり・付き合いの場を目指すことにもつながります。そのようなロハス橋の計画・設置を通して、多様な木の使われ方を学習することが狙いです。



⑦会津地域における森・里・湖の資源保全と地域活性化(福島大学)

2018年度～2019年度



福島大学経済経営学類の林薫平ゼミナールでは、磐梯山麓における森林・里山・農地(農業用水)・河川・猪苗代湖の資源保全のあり方を総合的に研究し、地元住民・子どもたちや農業・林業・商工業関係者が、資源保全と地域活性化の両立を考えるために、体験や議論を活か化できるような資料を作成し、交流や意見交換の場づくりを目指しています。

具体的には、猪苗代地域の農業・林業・集落調査、木育・食育ワークショップ開催(猪苗代町の八幡神社の集落での新割り会や、磐梯まつりでの木工・いなわしろフェスティバルでの新作り体験など)、ニホンミツバチ生息・飼育状況調査、南会津町の森林・木材関係の皆さんとの交流などを行っています。また、この一連の取組の社会発信として定期的にNPOグリーンエネルギーユース、ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団などの専門団体のご協力をいただき、共同開催のワークショップを実施しました。



⑧巨人に会いに行くプロジェクト(いわき短期大学)

2018年度



いわき短期大学の「巨人に会いに行くプロジェクト」では、浜通り地区の巨木をめぐるツアーを計画し、「九品寺のケヤキ(いわき市)」「石森のカリン(いわき市)」「愛宕神社のイチヨウ(いわき市)」「上平窪のシノキ(いわき市)」「塩貝の大カヤ(楡葉町)」「大悲山のダスギ(南相馬市)」「泉の一葉マツ(南相馬市)」を訪問しました。すべてのツアーが終了した後は、樹木たちの偉大さ、美しさなど、そこで得た感動を他の学生に知ってもらうため、ツアーの際に撮影した写真を用いて巨木紹介写真パネルの作成し、いわき短期大学の学内へ展示を行いました。



⑨こおりやま開成の杜復活プロジェクト(郡山女子大学)

2019年度～2020年度



郡山女子大学家政学部で構成する、NLS(ナチュラルライフスタイル)部では、福島県郡山市磐梯熱海町石碇に位置する「郡山開成学園総合教育園」の安全調査と環境調査を実施し、安全性を確認することで、森林利用のための体験プログラムを作ることを目的としています。

1年目は植物、きのこ、生物それぞれの専門家の協力の下、環境放射線量の測定やきのこの放射線セシウム濃度観測、動物の定点観測を行いました。

2年目は、1年目で得られた知見に基づき、更なる確認調査を行い、生態系を明らかにするとともに、森林利用のための体験プログラム「人工林(ヒノキ)の伐採作業」と「森林学習会の開催」及び「自然観察会のための小道の整備」等を行いました。

これらの活動は、ふくしま再生可能エネルギー産業フェア2020や、地域活動報告会及び学園ホームページで情報発信を行いました。



⑩女子大学生と職人さんがコラボ(郡山女子大学)

2019年度



郡山女子大学の「女子大学生と職人さんがコラボ」では、建築デザインコースに在席する学生が、福島県建築大工業協会の職人さんに、木造建築の魅力や技術等についてヒアリングを実施し、福島県産材の利活用について検討して情報発信をすることで福島県の森林・林業の活性化に繋げることを目的としています。活動では、フィールドワークでの木の伐採から木材加工までの見学や、国見町で開催された「石工フェス」にて一般向け著作りのワークショップを出店し講演会として職人さんをお招きして建築学生向けの特別授業を行いました。

こうした活動を通じて、木材を活かした建築物や住空間の良さや、木材を扱う上での技術や知識を学んだのはもちろんのこと、ワークショップを通して地域の方々に、木に対する親しみと関心を持っていただくことができたと思います。



⑪只見の森と本「たもかく」プロジェクト(桜の聖母短期大学)

2019年度



桜の聖母短期大学キャリア教育学科1年図書館司書課程履修者の8名は、授業の中で紹介された只見町にある株式会社「たもかく」が行っている「古本と森を交換する事業」に興味を持ち、「只見の森と本「たもかく」プロジェクト」を立ち上げました。

当プロジェクトでは事前学習と現地視察を実施し、現地視察では「たもかく」の吉津社長の「本と森を用いて、田舎の活性化を図りたい」という思いと150万冊という古本の山に感動しました。「たもかく」が行っている、古本と里山の雄木林一坪と交換する「一坪の森とらすと」などは、只見の森を活用した事業です。「古本と森」というキーワードを使ったこの事業により、都会人に田舎に関心を持ってもらい「森のオーナー」を増やすことで森を守り、更には交流人口が増え町おこしに繋がることを学びました。

また、ブナの森のトレッキングと只見町バナセンターを見学した際には、ブナ林の美しさや水害を防ぐ機能を学びました。このような当プロジェクトでの学びを多くの人々に知ってもらうため、インスタグラムやポスターを活用し、広く情報発信を行いました。



成果報告会

毎年度末には、活動した団体の成果発表を行ってきました。同時に県内の森林・林業に関し見識のある講師を招いた勉強会を開催し、学生の交流や森林に関する理解の促進を図ってきました。

勉強会講師(所属・役職は当時のもの)

- 2017年度 福島県林研グループ連絡協議会
副会長(全林研女性会議 理事) 早矢仕 恵子 氏
- 2018年度 特定非営利活動法人みなみあいづ森林ネットワーク
事務局長 松澤 瞬 氏
- 2019年度 三島町産業建設課 桐専門員 藤田 旭美 氏
- 2020年度 関根木材工業株式会社 代表取締役 関根 健裕 氏

